



大学図書館における業務委託の 将来展望 —「役立つ」から「頼りにされる」企業へ—

2011年9月2日

株式会社クレオテック 田中康雄

業務委託の目的

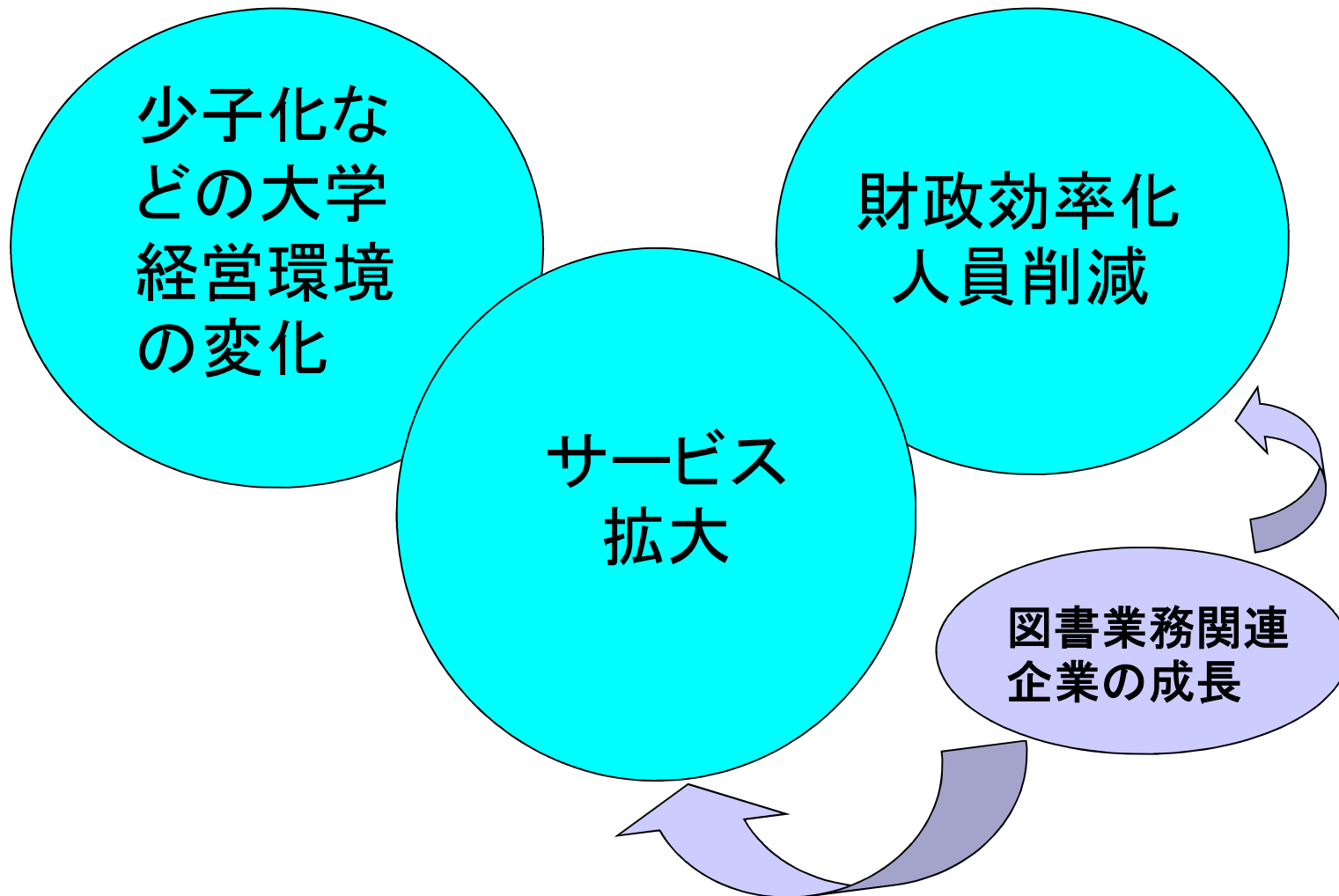
- 専門性の確保・強化
- 人材不足への対応
- コスト削減（人件費の削減、設備投資費用の削減）
- 新技術の活用 ⇒ 新規分野への進出、または機能強化
- 本業への集中化（コア業務に特化）
- サービス水準の向上

業務委託をめぐるトラブル

- 品質が悪い
- コストが高い
- 納期が遅れる
- 責任の所在が不明確
- 取引先との関係で問題が生じた
- 社内業務の質が低下した
- 企業秘密が漏れた



大学図書館における 業務委託化の経緯



大学図書館における 業務委託化の経緯

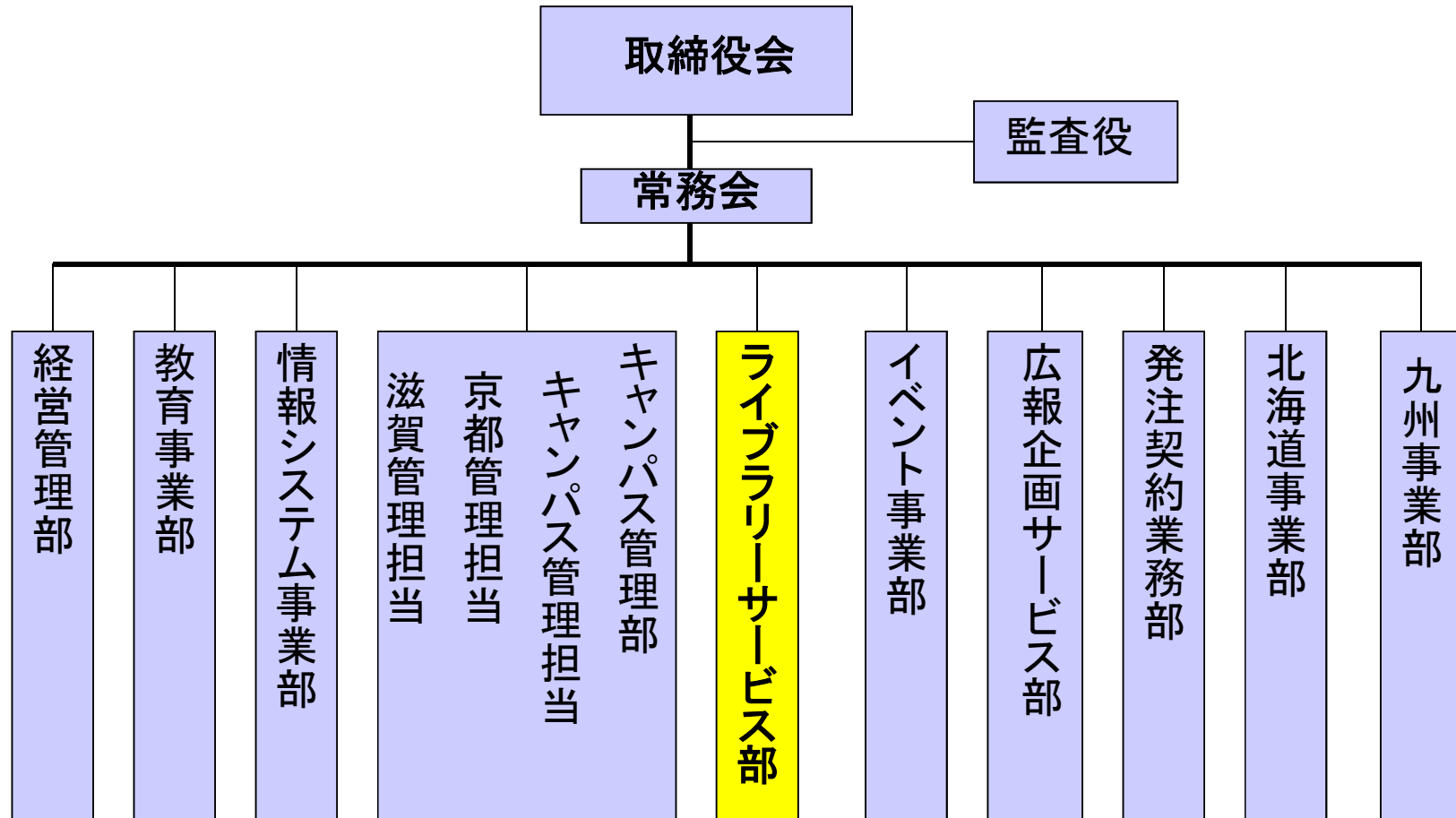
- **スタート** 利用者サービスの拡大～開館時間・日数の増加
- **図書館運営コストの抑制～定員減**
資料管理業務へ拡大
- **専任職員の人事異動（専門性の蓄積が困難）** 目録、レファレンスについても、業務委託を活用し、専門性を高めることができる

(株)クレオテックの概要

- 創立：1993年
- 資本金：9,900万円（学校法人立命館が100%出資）
- 社員数（2011年4月現在）
 - 正社員：187名（出向者4名を含む）
 - 期間社員：23名 嘱託社員：10名
 - パート社員 246名

* 設立当初は30名程度

事業部の構成

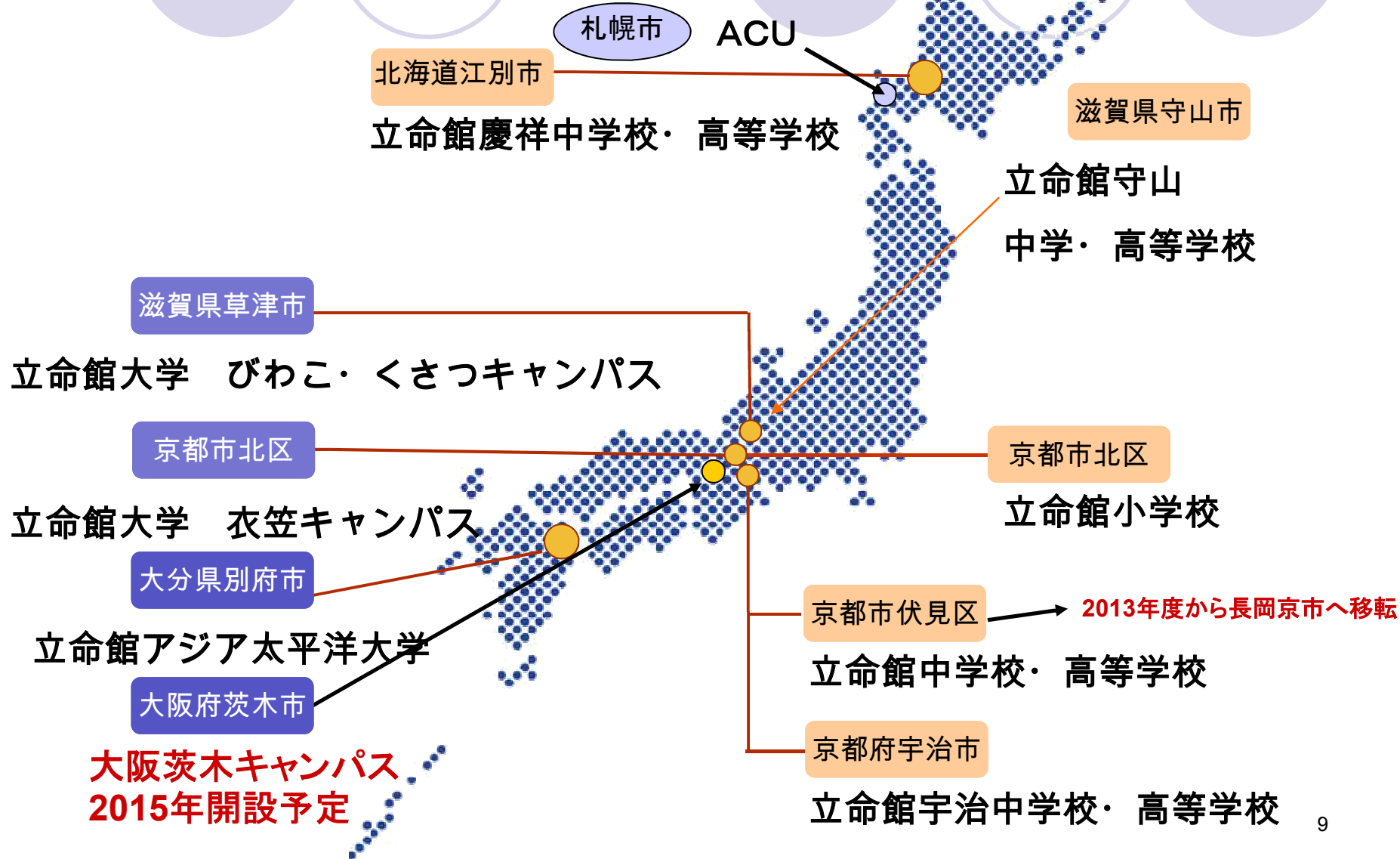


従業員の状況

(2011年4月1日現在)

事業所	出向者	正社員	期間社員	嘱託	パート	計
役員・経営管理	1	16	0	2	2	21
キャンパス管理部	0	53	0	5	159	217
ライブラリーサービス部	0	29	6	0	27	62
情報システム事業部	1	5	0	0	0	6
教育事業部	1	12	0	3	13	29
発注契約業務部	0	22	1	0	4	27
イベント事業部	0	7	0	0	5	12
広報企画サービス部	0	5	0	0	0	5
北海道事業部	1	9	14	0	20	44
九州事業部	0	24	2	2	15	43
全 体	4	182	23	12	245	466

キャンパスロケーションとクレオテック事業所所在地



立命館大学、APUにおける 図書館業務委託の状況

- 「業務の丸投げ」はしない
学校法人立命館の100%出資会社として「大学図書館業務委託のベストモデル」の構築を目指す
- 2大学、4キャンパスの図書館業務委託
業務仕様書の内容だけでなく、大学と協同して利用者サービスの高度化に向けて取り組む

立命館大学、APUにおける 図書館業務委託の状況

● 業務評価システムの構築

立命館の出資会社といえども、評価なしの業務継続はありえない。

既に年度単位で「**図書館事業報告書**」を作成しているが、これとは別に「**業務評価システム**」を構築中である。

立命館大学、APUにおける 図書館業務委託の状況

● 人材育成

かつて専任職員が担ってきた業務を行うこと
の責任。社員の雇用を安定的に確保し、業務
に対するモチベーションや質を高めるための
取組みの実施。

大学図書館業務実務能力認定試験の受験、各種
図書館関係研修会、社内研修（マナー・コミュニケー
ションスキル） 語学力強化（TOEIC受験）
学園情報の共有



今後の展望

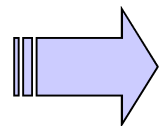
●事業継続性について

(1) 業務委託化の拡大要因

財政効率化、人員削減、サービス時間の拡大

(2) 事業継続における将来課題

物件費と人件費の違い、学術情報の電子化、インターネットの高度化



「役立つ」から「頼りにされる」企業へ

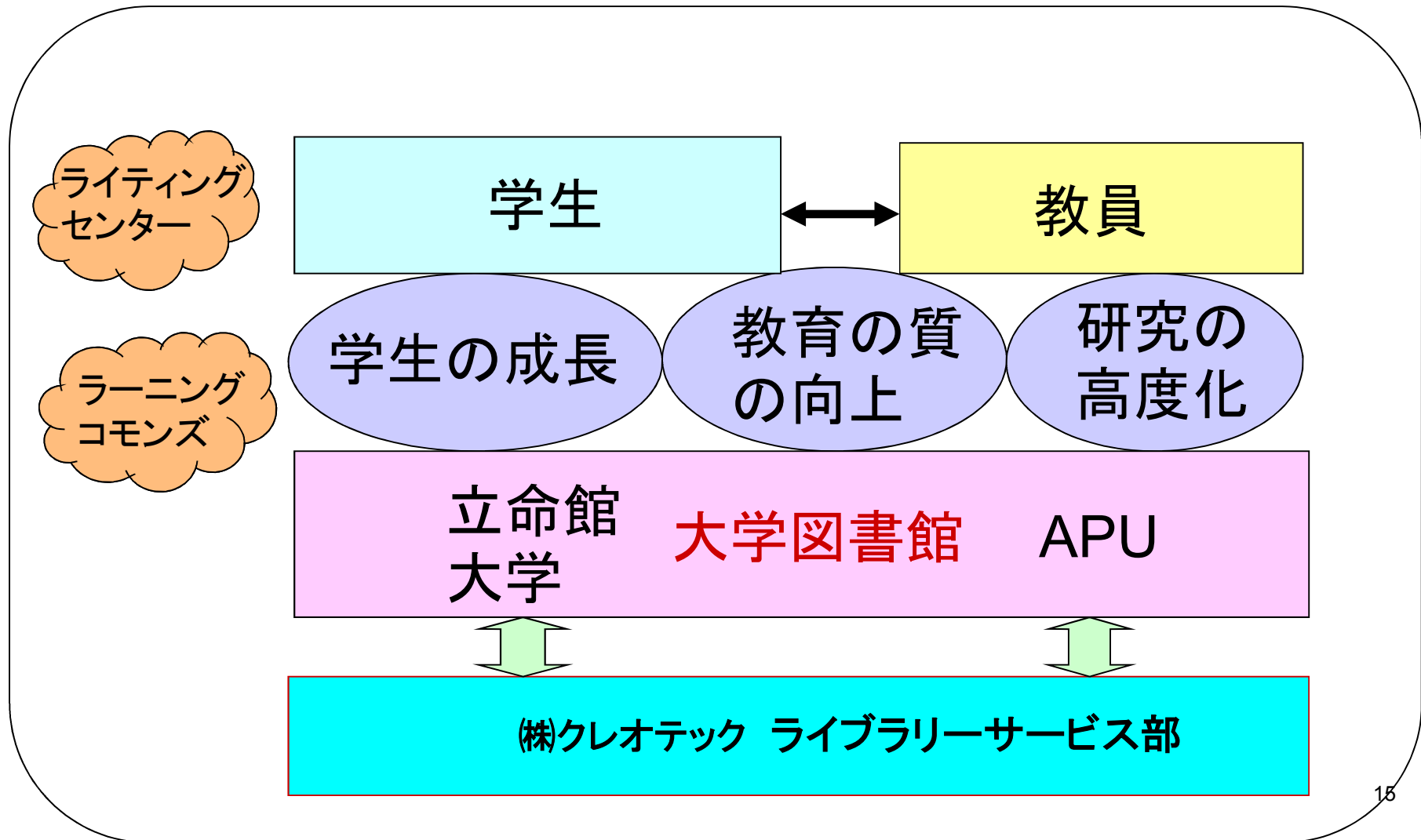


今後の展望

- 大学や図書館の事業方針に沿った事業展開

本当の意味で大学図書館と受託企業が対等な関係を構築できるよう、社員教育を強化し、人材育成を進める。そのことが利用者サービスの高度化に繋がると考える。

大学図書館における業務委託の役割



立命館アジア太平洋大学ライブラリー ラーニング・コモンズ Pangaea(パンゲア)



立命館アジア太平洋大学ライブラリー ラーニング・コモンズ Pangaea(パンゲア)



立命館大学図書館ラーニング・コモンズ “ぴあら”



立命館大学図書館ラーニング・コモンズ “ぴあら”



THE END